

公表

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果

事業所名	LEGON Kids天満月組		公表日		2026年 3月 5日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6	2	一番大きな活動スペースに余計なものを置いていない。情報量を必要最小限にしている。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5	3	来所する児童によっては職員数が足りないと感じることはあるものの、そういったときはいくつかのグループに分けて対応するなど、児童の安全と活動が確保できるように考えられている。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6	2		エレベーターにすぐ乗ることができる。児童でも鍵が開けられてしまう、などの部分は気になるが、間取り上の問題なので仕方ないと思う。事務所から活動スペースが一望できない。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	2	6		壊れている棚や靴箱が長期間修理されていない。カーペットのため汚れても水拭きができない。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8		学習室とネイル室の2部屋の他にも、他の階にも利用可能な個室があるので必要に応じて選択し利用することができる。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	6	2		日々の話し合いの中で自然とPDCAサイクルの形になっていることはあるかもしれないが、PDCAサイクルに当てはめながら話し合う機会はない。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	3	まだその場面に会っていない。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	1	申し送りと終礼が毎日行われているので気になったことをすぐに話し合いどうすれば良いか意見を出し合える環境になっている。	全職員の意見を聞くという訳ではない。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3	6		外部とはどの機関のことを言うのかが分からない。外部機関が見に来ることはほとんどない。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6	2	資格のための研修以外で研修を受講している様子を見たことがない。本を読むだけでは知りえないことや情報のアップデートも多いと思うので、定期的に参加したい。	
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8		ホームページで公表している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	8		保護者の意向が多いが、行えている。送迎時に保護者に話を聞き、より適切な支援を提供できるようにしている。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8		計画を作る際に、1人の児童に対して全職員の各々の視点からの意見が集められている。ノータッチということがない。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8		作成した支援計画書を全職員と共有し、支援場面で統一した対応ができることを目指している。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7	1		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8		支援案に記載している。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7	1	特に土日祝で児童の活動時間が長いときなど、「今日はこんなことがしたい」とその日の活動方針を話し合うことができています。1日の中でも状況に合わせて活動が考えられている。	

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8		平日は同じような流れになりがちだが、その中でも個別プログラムが日々ステップアップしたり外遊びでも日によって「サッカーの日」「大縄の日」などがあったりして「暇」の音が少ない。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	8		五領域の案に組み込んでいる。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8		朝礼を活用している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8		終礼で行い、グループラインのノートに記入することで、休みの職員にも伝えられるようにしている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8		児童の日々の情報更新が多い。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	8			地域交流の活動は取り入れが難しい。
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	8		能力や興味、本人の意向を踏まえて活動を決めている。	
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8		対面が難しいときにはWEB会議で参加している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8			保育、教育とは必要に応じた連携が行われているがその他機関との連携はまだあまり見れていない。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	8		保護者を通じて行っている。 送迎時にその日の児童の様子なども共有している。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	4	4	必要に応じて、電話や訪問で共有の機会を設けている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。		8	まだその場面に会っていない。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	3	5		
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	3	5		たまに公園で遊ぶ地域の児童と絡む程度。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	3	5		できていない？
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	8		日々の送迎時や、電話・LINEで行っている。	
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	1	7			
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7	1	契約時に説明している。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7	1	長期計画、短期計画を意識し、保護者の意向に沿って作成している。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	8		説明後に納得していただいた上でサインをいただいている。	

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8		随時行っている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	1	7		保護者会は難しいかもしれないが保護者も参加できるイベントがあれば、普段の子どもたちの様子や他児童との関わり、その保護者との交流にも繋がると思う。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8		管理者に報告の上、管理者が迅速に対応している。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	8		個人間のLINEやブログなどはあるが、保護者全員にどんなイベントがあってどんな様子かを具体的に伝える手段がないので、通信などがあるともっと活動に興味を持ってもらえると思う。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8		個人情報に記載されている書類は、鍵付きロッカーで管理している。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5	3		地域との交流をしているところをまだ見たことがない。招待は難しいかもしれないが、地域のお祭りや活動に参加できる機会があればいいと思う。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6	2		
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	8		契約時に確認、またモニタリング時や保護者から報告があるたびに職員間で共有している。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	3	5	現在そのような児童は不在だが、以前は机を分けるなどの対応はしていた。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8		避難訓練は定期的に行われているが救命講習なども定期的を受けたい。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8			
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8			
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	8		やむを得ない身体拘束は、同意書をいただいている。		